

井戸端だより

第 62 号

発行日：2008. 6. 28

発行：くらしの学習会

ミャンマーではサイクロン、中国では四川大地震、日本では岩手・宮城内陸地震と自然の災害で大勢の命が奪われました。一方、東京秋葉原では、一人の人間により7名の尊い命が奪われました。何ともやりきれなさを感じます。

さて、井戸端だより 62号をお届けします。今年度総会で決めた私たちの活動目標の一つが実現することになりました。『残したい東温市の自然』展です。7月26日土曜日東温市中央公民館1階ロビーで1日限りの開催ですが、皆さんお誘い合わせのうえ、ご来場いただき何か考える機会にしていただければ幸いです。



目 次

- | | |
|-----------------------|--------------|
| ・4月例会報告—土佐と伊予のしだれ桜巡り— |P.2~4 |
| ・愛媛新聞「玉糸桜」関連記事 |P.5 |
| ・愛媛新聞「東温ブランド」関連記事 |P.6 |
| ・5月・6月例会報告 |P.7 |
| ・ジャコウアゲハ |P.8 |
| ・労働者派遣法について |P.9 |
| ・老人医療費の今昔 |P.10 |
| ・雑感 |P.11~13 |
| ・お知らせ・編集後記 |P.14 |

*** 4月例会 土佐と伊予のしだれ桜巡り ***

4月9日（水）4月例会を桜の時期でもあり新聞やメンバーの情報を元に33号線沿いにある「しだれ桜」の名所を巡る事にし8名で出かけました。

当日の天気はまずまず、一気に県境を越え高知県吾川郡仁淀川町へ。ここでは市川家・中越家のしだれ桜を見る予定。33号線から「しだれ桜」の看板に沿って仁淀川を渡り、秋葉トンネルを抜け進むと「しだれ桜」の表示のある駐車場がありそこに停車。少し登った所に石組みに囲まれた立派な「しだれ桜」が。資料の桜とはチョット違う感じ。庭先の縁側に座っていた方に尋ねてみると、樹齢50年程でこちらのお宅は大石家とのこと。しばし見せていただき「中越家のしだれ桜」を目指します。案内表示に従い少し急な山道を進むと道路沿いに多くの車が駐車し露店が出ています。なんとか駐車をし、目の当たりにした推定樹齢200年「中越家のしだれ桜」の優美で堂々とした姿は圧巻です。由緒ある庄屋跡地の「しだれ桜」として、県内外から多くの見物客やカメラマンが訪れるのが分かる気がする、とても魅力的な姿です。

この桜の奥の杉林の中には、土佐の三大祭りの一つにも数えられ平家の落人が創始した伝承の祭り『秋葉まつり』の祭礼（2月9日～3日間）が行われる「秋葉神社」があります。急な石段を上ると杉木立ちに囲まれ、下の桜のにぎわいが嘘のような静寂さと凜とした空気の中に社殿があり、その広場を囲むように祭りを見物するための段々席が珍しい造りです。「まるでコロッセオみたい」と誰かが言っていましたが、この地域の人達が祭りを大切にし楽しみにしている気持ちが感じられます。因みに秋葉神社の御祭神は火産霊命（ほぶすなのみこと）火防や災難避けのご信仰があるそうです。「しだれ桜」と「秋葉神社」を見る内に正午も回り、予定していた「市川家のしだれ桜」は「大石家のしだれ桜」と樹齢が同年程度で時間的な事もありあきらめる事にして高知を後にしました。

愛媛（旧柳谷村）にある「西村太子堂」へ。33号線からの入り口に目印の旗が立っているので分かりやすい場所ですが、ここから約5分細い山道を矢印に従い登っていくと中津地区桜まつり会場の奥に「西村太子堂のしだれ桜」があります。樹齢約220年の老木は幹が三本の太枝に分かれ高さ約9mに

まで張り出し、まだ五分咲き程度でしたが薄紅色の花が風にゆれ、木の周りを囲む菜の花と共に目を楽しませてくれています。中津地区住民による出店があり山里の素朴な味も楽しめました。桜保存の為の募金活動もしていました。ゆっくりしたいところですが、1:30近くなり昼食もまだ取っていないので33号線を旧美川方面へ車を走らせ「道の駅みかわ」で簡単昼食をすませ、四本目の桜「法蓮寺のしだれ桜」へ。

樹齢150年以上高さ8mうす紅色の花を流れ落ちる滝の様に咲かせています。七分咲き程度でしょうか。5年前に植えたクローン苗も今年初めて開花したそうでたわわに花を付けていました。

四本のしだれ桜は、それぞれに違った立ち姿を私たちの目を楽しませてくれました。ちょっと欲張りだったかも知れませんが、今後、それぞれの好みで訪れる場所としてチョイスしてもらえればと思います。時間の都合で見られなかった「市川家のしだれ桜」も候補の一つに入れてくださると有り難いとも思います。

桜を見終わる頃にはポツポツ雨が降り始め最後に訪れる「久万青銅の回廊」に到着の頃にはかなり本降りに。ここは以前にも例会で訪れていますが、メンバーの一人が訪れていないのと何度来てもステキな美術館として予定の締めに入りました。（他のメンバーは何度となく訪れているそうです）久し振りに藪内佐斗司作の童子に逢えて私は大満足。紅茶を頂きながら今後の例会について話し合いをし、帰路につきました。Hさん長時間の運転お疲れ様でした。

久万青銅の回廊 開館情報 ☎0892-21-2221

4月～11月 土・日曜日 10時～17時 開館

水・木・金曜日 予約のみ（3日前までに・一人でもOK）

月・火曜日 休館

12月～3月 休館

（2008.4月現在）

桜の時期が来てなんとなく花が終わっている事が例年なのですが、今年は何故か桜が気になる春でした。4月例会で4本のしだれ桜を堪能したその夜、新聞に目を通していると東温市にあるしだれ桜の記事が。「地区のシンボル『玉糸桜』復活 増殖の苗木に40房花開く」東温市上村の伝宗寺にある「糸玉桜」はエドヒガンザクラのしだれ桜。江戸時代からあった桜の二代目で幕末に植えられ、花房が玉のように見えますとあります。次の土曜日出かけてみました。記事に出ていた苗木を右手に見ながら入っていくと、横に伸びた老木は支え木2本に横たわる様な姿で、その幹から分かれた2本の枝には沢山の花を咲かせていますが、負けじと少し白っぽい色合いの花をしっかりと咲かせていました。残念ながら花の見頃は過ぎ散り始めてはいましたが、来年も玉のような花房を咲かせ私たちの目を楽しませてくれることでしょうか。地元の名木「糸玉桜」についての資料を図書館で調べてみようと思っています。保存に携わっている住民の話も聞いてみたいとも思っています。

南海放送でも、愛媛県内にある桜の名木をシリーズで放映していました。

※大洲市河辺町 用の山桜

※内子町石畳東地区 樹齢350年超えのしだれ桜 愛媛県天然記念物指定

※四国中央市真鍋家の後 表(おも)桜

※四国中央市新宮 馬場の山桜 花が小さく全開しない原種に近いエドヒガン 愛媛最大と言われている。

※愛媛独自の桜

松山市下伊台 西法寺 薄墨桜 三代目

今治市朝倉 満願寺 しぐれ桜 自然交配エドヒガン山桜樹齢約200年

西条市丹原 陽春 ソメイヨシノの変種 16.5m

新居浜市 明正寺 早咲きの桜

それぞれ特徴ある桜らしく詳細はインターネットなどで集め尋ねてみたいと思います。中途半端な情報ですみません。 A. M



東温市上村の伝宗寺にある地区のシンボルの存在のしだれ桜「玉糸桜」を残そうと四年前に増殖され地元へ植えられた後継の苗木二本がこのほど、四十房ほどの花を初めて咲かせ、住民らを喜ばせている。

玉糸桜はエドヒガンザクラのしだれ桜。同地区に江戸時代からあった桜の二代目で幕末に植えられ、花房が玉のように見える。

大正か昭和初期ごろ桜の下で開かれた句会参加者が命名したとされ、高さは約十メートルというが、一九九一年に台風で大きく傾き、枯死が心配されていた。

地域の名桜の存続を業じた住民らは九九年、旧温泉

地区のシンボル「玉糸桜」復活

東温 増殖の苗木に40房花開く



初めて花を咲かせた「玉糸桜」の後継苗木＝4日

郡重信町を通じ県林業技術センターに後継増殖を依頼。同センターはバイオ技術で成功させ、二〇〇四年

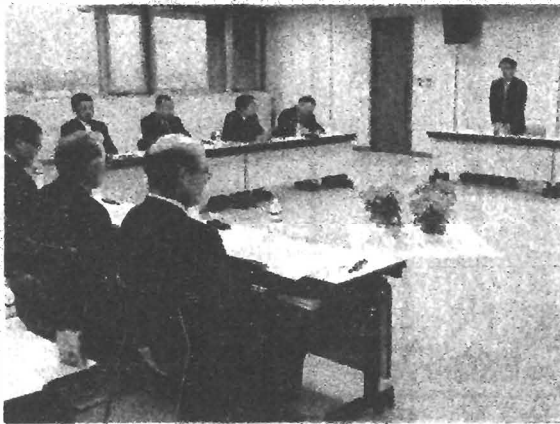
三月に二本、〇六年三月に三本の苗木を住民に渡した。

苗木は、同地区の石丸法明さん(六五)方の梅園で住民有志らが世話を続け、〇四年に渡された二本は高さ約四メートルまで成長し、四月に入り初めて花を咲かせ始めた。残る三本も順調に育っている。

玉糸桜の増殖にかかわり、このほど苗木を見に訪れた同センターの岡田恭一主任研究員(三九)は「手入れが行き届き、よく育っている」と感心。同地区長の白石卓夫さん(六八)は「苗木は上村の貴重な財産。大事に育てて地域活性化に役立てたい」と話していた。

一次産品売り込み作戦 道険し

東温ブランド候補なし



「東温ブランド」への道険し。東温市が農林業振興と知名度アップに向けて取り組む一次産品のブランド化戦略で、対象産品や販売戦略を検討してきた「とうおん農産物等ブランド化推進委員会」（委員長・鈴木茂松山大教授、十一人）はこのほど、「現実なブランド産品候補がない」とする結論を出した。最有力候補だった市内産麦の数量確保難などが背景にあり、地域ブランドが全国でブームとなり乱立状態ともいわれる中、地域をイメージづける産品探しの難しさを浮き彫りにした。

市推進委結論

同推進委は二〇〇六年九月、市が市内の生産・販売関係者らをメンバーに設置。商標登録には至らないまでも「東温」の名前を真

一次産品のブランド確立へ向けた基本方針を承認した「とうおん農産物等ブランド化推進委員会」の最終会合

＝19日、東温市役所

最有力麦の量確保難

内外へ売り込める一次産品ブランドづくりを目指す。これまで五回の会合や、市外での関連フォーラム参加で検討してきた。

市内の主要一次産品は県内で生産量上位の裸麦や花き、イチゴなど。特に市は麦に注目。裸麦やもち麦を使った商品開発など市商工会のブランド化事業を支援し、市有施設で特別メニューを提供するなど、ブランド化構想の中心に据えている。

だが推進委の協議過程で、裸麦について「現行の流通体制は六市町にわたる広域のJAを基幹としており、市内産の確保が難しい」と判明。予約締め切り四月三日で販売する。問い合わせは市商工会＝電話089(9)64-1254。

市商工会も四月、〇六年度「〇七年度ブランド化事業の成果として、地元産裸麦やもち麦を使ったパンや菓子など十品目の「とうおんブランドまるごとパック」を三百個限定（二千八百円）を三〇年度に販売する。問い合わせは市商工会＝電話089(9)64-1254。

推進委は十九日、最終となる五回目の会合を開催。消費者本位や安全・安心な産品提供など、将来のブランド化を目指す基本方針を承認することとまとめた。

予定より遅れる結果となったが、市は今後もブランド化支援を継続する。〇八年度は、基本方針に沿った産品の作り手への補助事業を実施。産業創出課は「ブランド化する産品を限定しなかったことで、かえって作り手のアイデアを誘発させることができるのではないかと話す。」

五月例会報告

5月28日11時から代表の自宅で5月の例会を持ちました。参加は5人。活発な意見交換により、以前から話し合っていたパネル展の構想がまとまりました。テーマは“残したい東温市の自然展”。三か村泉の絵葉書作成に際しても御世話になった白形さんの水彩画と植物標本、奥川さんの東温市の動物や鳥の写真を中心に、7月26日(土)10:00～15:00、東温市中央公民館一階ロビーで一日限りの展示会を開催することになりました。大切な作品や資料をお借りすることを考えると一日が限界だと考えました。

午後は白形さんのアトリエに伺い、現存する自然と失われてしまった自然の水彩画と植物標本をお借りする了解をいただきました。

奥川さんには後日代表が連絡を取り、作品をお借りできるだけでなく当日会場でお話もして下さることになりました。

快く協力して下さるお二人に心から感謝すると同時に、この様な貴重な作品や資料が揃うまたとない機会に、一人でも多くの方に足を運んでいただきたいと思います。(K.O.)

六月例会報告

6月18日(水)午後3時、7月にパネル展を開催する東温市中央公民館ロビーに、打ち合わせを兼ねて集まりました。白形さんも来てくださいました。丁度、1階ロビーでは、所狭しとパッチワークキルトの展示会をしていましたので、パネルの種類・大きさが確認できました。パネル展は、ロビー全面を使ったものにする事、出展して下さる白形さん、奥川さんを交えた打ち合わせ会を近々持つこと、早速ポスター・チラシ作りをすること、そしてそれぞれの役割などが決まりました。例会後、お二人の快諾を得、次回打ち合わせ準備会は、6月28日土曜日午後1時半から、中央公民館1階ロビーにてと決定しました。作品の展示方法、作品の配置など詳しいことが決まることになると思います。いよいよ、パネル展が現実味を帯びてきました。今回の例会で本当に実施できるのだという思いを強くしました。あとは、いかに多くの人に見てもらえるかだと思います。7月の市の広報に掲載は決まっていますが、あとの宣伝方法は今回の会報にチラシを入れるということ、ポスターを数枚貼らせてもらうことぐらいです。会員各自のロコミに期待したいと思います。(T・H)

ジャコウアゲハ

ジャコウアゲハは、冬は蛹で越冬し、この時期は数ヶ月羽化せずに過ごすと言っていたが暖かくなっても我家の蛹は一向にそのけはいがない。

6月3日、尋ねて行ったKさんの庭では、ジャコウアゲハの幼虫が木や葉っぱのアチコチでうろうろしている。「頭の悪いのがいてウマノスズクサの葉っぱは全部食べてしまい茎だけが残っている」とKさんの言葉を裏付けるようにどれも丸々としている。

その幼虫を5個貰ってきた。黒色に覆われた身体にいっぱい出ている突起の先は赤く、お腹の部分はピンクの帯をしたそれは、我家の高く伸びたウマノスズクサを食べ2日程動き回っていたが、その後は、繁みに隠れてしまったのか姿をみかけなくなった。いっぱいご飯を食べ満腹になったところで蛹になり羽化する準備をしているに違いない。暖かい時期の蛹は1～2週間ほどで羽化するという。蝶の大好きなサンジャクバーベナなど庭の花々もジャコウアゲハの出現を待っている。いま、我家の庭には、モンシロチョウ、キチョウ、数種類のシジミが飛びまわっている。

一方、昨年秋から見つめてきた蛹を詳しく観察してみた。そのうちの一つは抜け殻だった。その他はどうみても抜け殻の形跡はない。Kさんによると蟻に食べられることもあるという。残念・・・残念。

それにしてもジャコウアゲハの蛹の姿は、前から見ても横から見ても、見るほどに、奇妙に見える。

インターネット上に面白い話が出ていた。

ジャコウアゲハの蛹は「お菊虫」と呼ばれるが、これは各地に残る[怪談・血屋敷]の「お菊」に由来する。

寛政7年(1795年)には、播磨国姫路城下に後ろ手に縛られた女性のような姿をした虫の蛹が大発生し、城下の人々は「昔、姫路城で殺されたお菊の幽霊が、虫の姿を借りてこの世に帰ってきているのだ」と噂したという。このことに因み、兵庫県姫路市ではジャコウアゲハを市の蝶に指定している。戦前まではお菊虫を姫路城の天守閣やお菊神社でも売っていたといい、『志賀直哉の長編小説 暗夜行路』では主人公がお菊虫を買う描写がある。

現在姫路市内で観察されることは少ないが、春から夏に科学館などで生きている成虫を観察することができる。姫路市自然観察の森ではネイチャーセンターや園内で飼育しており、一年中、成虫や幼虫、さなぎを観察することができる。(S・K)

労働者派遣法について

現在、3人に一人が人材派遣会社を介して働いていると言われている。ほとんどが時給で労働対価を計算され、雇用保険も社会保険もない。ワーキングプア問題が社会に認知されて久しいが、労働者派遣法の改正は経営者側の反対で改正は難しいようである。

が、元々、労働者派遣法は高時給の人のためのものであり、一般労働者にそれを当てはめようとする趣旨ではなかった。

それにもかかわらず、労働者派遣法は、規制緩和のひとつの具体的な策に使われてしまった。人材を派遣する方法で、人間の労働対価を物や機械のように扱い、派遣会社と受け入れ会社は利益を得て、日本の会社は成り立っている。日本の製造業のほとんどの会社は外国からの研修生や日本の多くの若者の時給計算の給与体系で、しかも、各種保険もない状況で働かせる方法を取らないと利益がでないのなら、この製造業界の競争力のなさを工夫しなければならないと思う。かつては常用雇用で成り立っていた日本社会が、なぜ、こんな状況に陥ってしまったのか。小泉元首相が掲げた規制緩和を多くの国民が望み、それによって日本の国が良くなると期待したが、数年が過ぎ、規制緩和の問題点が浮き彫りになってきた。ここ数年、改正を重ねた労働者派遣法は私達国民が望んだものではなく、一部の利権者にのみ有利になるように改正された。ここで、ノーと言わなければ、ますます、国民感情とかけ離れてしまう。

かつての日本は職業安定法があり、ある程度の労働に対する安心感が社会全体に存在していたと思う。もっと以前は、所得倍増計画が掲げられ、多くの国民は豊かな暮らしを期待しながら日本の将来に望みを持っていた。国民の暮らしは今よりもっと貧しかったが、日本の未来は明るいと信じられるものがあつた。それは何か。努力をすれば報われる風土だと思う。人は生きていくために仕事をする。仕事は生きがいになる。生きがいは家族だと言う人があるかもしれないけれど、生活の基盤があつてこそその家庭である。人間にとって、仕事がないこと、働いてはいても、仕事の評価がないことは、非常に寂しい。仕事の満足感を得られないことが、時には、生きる目的消失の原因にもなりかねないことを経営者側は理解しなければならない。多くの若い世代の人たちが苦しんでいる。日本の将来を支えてもらわなければならない若い人が日本の将来に期待が持てないと言っている。その声に大人たちは深く反省し、何か工夫をしなければならない。

(M T)

老人医療費の今昔

今から四十年前、姑が脳溢血で倒れ入院したのは、私が三十三歳、姑が七十二歳だった。処置が早かったので命は助かったが、半身不随となった。六ヶ月の入院だったが、私達が共働きだったので、ヘルパーさんへのお礼と病院の支払で一人分の給料はゼロとなった。

今の様に介護保険も老人医療の補助もなくそれでも、親を大切に思い出来るだけの治療、リハビリ、心のケアを、何の惜しみもなく尽した事を思い出す。

それから十年もすると、掛金なしの老人に年金を一万円、老人医療費全額を補助の時もあった。七十二歳から九十六歳迄、家で介護したのでおむつ代に家族への思いやり費も役場からいただき、親は家で見るものという考え方から少しずつ老人ホームや病院へと移って来た。

誰でも生まれてから成長し成人となり世の中の為、家族の為と働いた後には、体の中も外も弱って死へ近づくものである。

戦後人口がどんどん増え、その人々が老人となりつつある。この時になって、老人医療費が高すぎる、使いすぎだと、あわてて後期高齢者医療保険を政府で決め年金から差引いたから、老人も黙っていない。私は、テレビや新聞で何故この保険が出来たのか知ったので一応納得はした。だが、月一万五千元や五万円位の年金の人にまで年金から天引きするとは弱者に対する思いやりがなさすぎると思う。

今の日本は大変な格差社会となり、大金持ちから、ホームレス迄、見て見ぬふりをして生活しているのが当たり前となっている。生まれ育った環境や、運の良し悪しで人生がどんなにでもなる時代となって来た。

金持ちは自分の生活ばかりを考えないで、貧しい人への思いやりで、後期高齢者の保険位は、多額に出して皆で助け合う制度の保険にしたいものである。

それにしても年寄りを喜ばせたり泣かせたり、もうちょっと見通しの出来る政治は出来ないのだろうか。 (Sa・K)

例年より 10 日近くも早く梅雨入りを迎え、俄かに辺りが活気づき、田には水が入り次々に田植えが進み、か細い苗が風に揺れツバメが低く飛び交っています。畔道で咲くあやめも水面に映えて一段と美しさを増しています。

6 月 14 日、突然テレビ画面に現れた緊急地震速報で穏やかな土曜日の朝は一変しました。時間が経つにつれて次々に写し出される被害状況。目を覆いたくなる有様です。つい最近、5月2日にはミャンマーでサイクロン、ナルギスが猛威をふるい復興の兆しささえ見えない 12 日、今度は中国で四川大地震があったばかりです。

円弧すべりによって山体崩壊をおこし剥き出しになった山肌、引きちぎられ深く谷底へと消えた道路。押し流され土砂に埋まった家屋。お年寄りの多い中山間集落の孤立。自然の脅威を改めて思い知らされています。

平成 20 年岩手・宮城内陸地震と名付けられた今回の地震の震源近くには北上低地西縁断層帯という活断層が知られ、国の地震調査委員会は全体の長さを 62km、最大 M7.8 の地震を起こす可能性を指摘していたものの、30 年以内に地震を起こす可能性は、ほぼ 0% としていたといひます。同調査委員会は「今回の地震と断層帯との関係は現時点で不明」との見解を 14 日夕に発表。また、別の専門家は、「コストと手間がかかるため活断層の調査地には限りがある。」「発生確率は地震が起こり得る最低限の危険度を示しているだけ。」「地表にはっきり現われていない未知の活断層がある。」とコメントしています。ということは、大地震は日本中どこでも起こりうるという事になります。人間に予測できること、想定できることはまだまだ極々僅かなのです。ならば、原発は作るべきではないと思えてなりません。核燃料の最終処分の場所も方法も確立できていない今はなおさらです。原発頼りの低炭素社会構想は愚かと思えませぬ。食べ物を燃料にしようとするバイオ燃料もまたしかりです。今の便利さを維持したまま CO₂ 排出量を 2050 年に 60~80% 削減しようとするところに無理があるように思えるのです。私達の棲みかである地球を守るためには不便を受け入れるのか、今の便利な生活は手放さないまま、時を過ごしてしまっ

いのか。今こそ選択を迫られている時だと思うのです。二兎を追うものなんとやら、になりかねません。

奥羽山脈は活火山が連なり、表層の地盤は火山の噴出物が堆積しているところが多く、今回山体崩壊を起こしたところも、激しい揺れが表層のもろい堆積物を押し流したと見る識者もいます。今までにも何度も地滑りを繰り返してきたところだといえます。

絵画教室の白形先生(自然に対する造詣が深く、7月のパネル展でもお世話になります)から、つい最近も「防災用品を備えることも良いが、それより自分が住んでいる所の地形、地質を知ることが大切。そうすれば、自ずと心構えが変わってくる。重信川のインドジョウについて調べていくと答えに近づくことができる。」と言われたばかりです。

高校時代の地理の先生の「山は山に、海は海に還りたがる。いくら人間が削ったり埋め立てたりしても長い時間をかけて元の姿にもどる。それを自然災害だというのは間違っている。人為災害だ。」という言葉思い出しています。

“天声人語”に引用されていた、物理学者であり文学者でもある寺田寅彦の「プレートがぶつかり合う位置にある日本列島は、国土全体が一つのつり橋に掛かっているようなものだから地震はいかんともしがたい。しかし被害は、減らすも増やすも人間次第。」との言葉が心に残ります。

三十数年振りに奈良県明日香村の高松塚古墳の壁画を見学した人の嘆きの文章に出会いました。彼によると、愚かな研究者と文化庁の不適切な保存対策によって発見当時の鮮やかな飛鳥美人たちは見るも無残な状態に劣化してしまったといえます。様々な分野の研究者の知識欲のおかげで私達は今この便利な生活を享受していますが、知識欲は時に残酷だと思ふ事があります。先日ある番組で蝶の飛行距離や行程を調べるため、研究員の指導のもと小学生たちが蝶の羽にマーキングをしている様子を見ました。蝶がどれ程のストレスを感じたことだろうと胸が痛んだ私はよほど科学的な探究心が欠如しているのかもしれない。

春の終わり、いつも私達に虫をねだって足もと近くまで寄ってくるモズの夫婦が子育てをしていました。巣から出ておぼつかない足取りでちょこちょこ歩きまわっているヒナが我が家の大型犬、大五郎(春の検診で46kg近く

あり、ダイエット中)に近づきました。つぶされては大変！私は、ヒナを両手で包み、安全な場所に移しました。その間親鳥が塀の上からじっと見つめているのは知っていました。私が良いことをした満足感で親鳥を見上げた瞬間、一直線に私めがけて飛んできた親鳥に頭を一撃されてしまいました。人間の掌に我子が捕らえられた時、親鳥は胸が潰れる思いだったに違いありません。それ以来、彼等は我が家にやって来なくなりました。

夏の初め、愛媛に移り住んで22年、初めて我が家にツバメが巣を作り始めました。嬉しくて、あれこれ“お手伝い”したつもりでした。ツバメ達は作りかけた巣を放棄して戻って来なくなりました。

余計な御世話！どころか大迷惑だったようです。そっと見守ることの大切さをかみしめた出来事でした。

高齢者ドライバーの免許証返納に特典が増えたとのニュースが流れています。特典よりも、免許証を持たない子供達、返納したお年寄りが安心して歩ける歩道の整備こそを切望します。今、真に必要な道路は車の為の道路ではなく安心して歩ける、歩きたくなる歩道です。そして徒歩圏内の地元商店街、公共施設の充実です。徒歩で生活が成り立つ街造りが出来れば、排気ガスも減り、自然に地域の繋がりも深まり、ウォーキングしたりジムに通ったりしなくても、今話題の“メタボリック.シンドローム”も減少するかもしれません。

アントワープオリンピックが開催された1920年生まれの両親のもと1948年ロンドンオリンピックの年に生まれた私は、ミュンヘンオリンピックの年に結婚し、北京オリンピックの今年、両親の七回忌を済ませ還暦を迎えました。人生の節目、節目がオリンピックの年に当たっています。今はチベット問題、環境汚染、軍事費の急増など問題山積の中国ですが、素晴らしい歴史を持ち多くの賢人を輩出したお国です。真に平和の祭典になるよう知恵を絞ってほしいものです。今まで中止せざるを得なかったオリンピックが幾度もありました。世界中の人々が一堂に集える幸せをかみしめ、さらにオリンピックに集う事が、世界中の一人一人が穏やかな時を紡ぐことができる地球を創るきっかけになります様に!!

(K.O.)

お知らせ

・冒頭でもお知らせした通り7月26日(土)午前 10 時から午後3時まで東温市中央公民館1階ロビーにて『残したい東温市の自然』展を行います。白形、奥川両氏から大変貴重な作品を出していただくことになっています。会員は前日25日の2時過ぎからパネル等の準備、当日8時半から搬入という作業があります。くらしの学習会としては久しぶりの外部向け企画です。力を合わせて意義のあるパネル展にしましょう。準備日、当日ご都合のつく方は、ぜひご協力をお願いします。林までお申し出ください。また準備に参加できない場合も、当日はお友達、お知り合いお誘い合わせの上、お越しく下さい。よろしく願いいたします。

読者の声

井戸端だより第61号に感銘を受けました。引き続き会報とお送りください。一層のご発展と祈りつつ。(ある賛助会員のお便りより)

・読者の声・投稿などお待ちしております。



くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000 円/年 購読会員 1000 円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610—5—21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089—964—6956(林)

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

私事になりますが、今年3月に夫の父が亡くなりました。ほぼ1年前に母を亡くしたばかりでした。人はいつかは亡くなる存在でしょうが、立て続けに親を亡くし、結果両親を亡くすということは本当に寂しいことだと思いました。でも、義父にしてみれば、92歳の往生だったように思います。亡くなるほうも、送るほうも納得できる死とは何でしょうか。自然災害による死、事故による死、殺人による死、自殺による死、病気による死、老衰による死……いろいろ考えさせられる今日この頃です。死を考えるということは生を考えることだと思えます。出来る限り納得できる生を生きたいものです(T・H)

『残したい東温市の自然』展

東温市中央公民館 1F ロビー

7月26日（土）10：00～15：00



奥川健一

5歳の頃から野鳥や哺乳類に興味を持ち身近なところから野鳥観察を始め25歳から写真を通して野鳥を撮影しはじめる。12年前から以前より念願であった哺乳類の撮影にも着手し今日にいたる。



くらしの学習会

TEL & FAX 089-964-6956



白形毅史

建築パース、イラストレーション、ネイチャーフォトを作成する傍ら、自然観察、環境調査を行う。愛媛県レッドデータブック、愛媛の絶滅のおそれのある野生動物2003及びレッドデータブックまつやま2002の調査、執筆に参加。現在、環境調査、水彩画教室、水彩画家として活動

